

三重創生ファンタジスタ News

三重創生ファンタジスタ養成に関連した情報をお届けするニュースレターです！

COC+と三重創生ファンタジスタとは？

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)は、三重県における雇用の創出と県内就職率の向上につながる地域の活性化を目指し、「食と観光分野」、「次世代産業分野」、「医療・健康・福祉分野」をリードできる三重創生ファンタジスタ（状況や事態を的確に把握し、複眼的な視点から柔軟で創造力に富んだ発想と行動のできる人材）を養成することを目的としたものです。

三重大学では、「地域志向科目群」、「地域実践交流科目群」、「地域イノベーション学科目群」の3つのステージで構成する「三重創生ファンタジスタ」資格認定副専攻コースを展開しており、県下の高等教育機関においても同様なプログラムで三重創生ファンタジスタの養成が進んでいます。

三重県の現状や課題を知り、地域や現場の人たちと多面的なコミュニケーションを図りながら、三重県の新時代を切り拓くことのできる人材を育成しようとする取り組みです。

参考：<http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/>

と回答する等、地域志向の高まりを感じられるイベントとなりました。4月20日（金）には四日市大学で、5月9日（水）には皇學館大学で、6月5日（火）には鳥羽商船高等専門学校で同イベントが開催され、それぞれ244名、94名、73名の学生が参加しました。今後は鈴鹿大学での開催も予定されています。

参考：<http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/job2018mie428.html>
<http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/job2018yokkaichi.html>
<http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/job2018kogakukan59.html>
<http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/job2018tobasho65.html>

学生が三重の企業に訪問



平成30年5月10日（木）、三重大学の学生が、地元企業であり、COC+の事業協働機関でもある多気町の万協製薬(株)に見学に訪れました。見学当日の様子は、中日新聞のミエシゴト探訪でも紹介されています。

社長の松浦氏からは、ゼロからスタートする厳しさや楽しさ、また成功する秘訣について、工場内を回りながらお話しいただきました。また、製薬業界だけでなく、地域貢献の取り組みや、ご自身の趣味でもあるアニメ、フィギア博物館についても丁寧に説明されていました。「中小企業の方が、いろいろな仕事ができ、多様なスキルが身につく。人手不足の時代なので、比較的就職しやすいかもしれないが、安易に安定を求めるのではなく、働きながらまだまだ成長できる場所を見つけてほしい。」と学生に思いを伝えていました。

訪問した学生は、「社長の言葉が心に刺さった。」「社長と従業員が繋がっている職場づくりに魅力を感じた。」と地元企業への関心が膨らんだ様子でした。

参考：<http://www.mie-seikatu.com/2018/05/21/5-17>

地域の若手社員と対話できる イベント開催



平成30年4月28日（土）、三重大学メディアホールにおいて「三重大学Jobキャラバン」が開催され、三重大学生、三重短期大学生、四日市大学生の合計29名が参加しました。

Jobキャラバンは社会人とざっくばらんに対話する機会を通して、学生生活をより有意義に過ごしてもらえる機会を作ることや県内企業を知り県内就職率向上を目指す取組です。アンケートでは96%以上の学生が本イベントに満足したと回答し、「地域で働くことに興味は持てましたか」の質問には、100%の学生が興味を持てた

学生の固定観念が崩れるカード ディスカッション

平成30年5月22日（火）、三重大学メディアホールにおいて「カードdeトーク」を開催しました。職業観や仕事観を養うため、COC+事務局とNPO法人Mブリッジが協力して実施したイベントで、学生8名が参加しました。

本イベントは、カードツールを用いて、参加者同士がそれぞれの価値観等を話し合うものです。カードに記載されている人物像から、「一緒に働きたくない人」、「チームとして働きたい人」について、選んだ理由を話しながら共有しました。参加した学生からは、「そんな考え方があるとは！」と驚きの声があがりました。



人を選ぶ理由は千差万別であり、それぞれ価値観や考え方が異なること、別の側面から見ると欠点も長所になること等、沢山の気づきを得ることができたと思います。

参考：<http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/card-de-talk.html>



この踏切は広くならないの？」など、多くの質問が飛び交い、前葉市長は一つ一つの質問に対して、丁寧にわかりやすく答えていただき、聴講者は「津市がそんな街づくりをしているとは全く知らなかった。非常に勉強になりました。」と喜びの意を表していました。

「日本理解特殊講義(三重の歴史と文化)」では、今後も様々なゲストスピーカーをお呼びして講義をしていただく予定です。

授業を履修していない方も、ご参加いただけることがありますので、もし興味をお持ちの方はぜひご参加ください。

参考：<http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/2018wed5.23.html>

新任教員紹介

平成30年4月に地域人材教育開発機構地域創発部門へ着任した新任教員を紹介します。



東 大史(あずま たいし)

民間企業勤務、地方自治体アドバイザーを経て現職。

北は北海道で地方創生シニアマネージャー、南は徳島で廃校活用のプロジェクトを実践した経験を持ち、現在は地域の魅力をどのように事業にしていくなかについて、産学協働の取組みを進めている。

織田 拓(おりた たく)

平成29年9月三重大学生物資源学研究科にて、博士号取得。生化学や分子生物学を専攻しながら、津市の限界集落である美杉町で地域活性化事業に取り組む。お祭りの企画をしたり、地域のお土産グッズなどの制作もしている。大阪府出身の地方大好き人間。

津市長が授業で登壇

平成30年5月23日（水）、三重大学における前期開講授業「日本理解特殊講義(三重の歴史と文化)」のゲストスピーカーとして、『近世の三重を担った人々「藤堂高虎と津のまちづくり」』をテーマに津市長の前葉泰幸氏が講義をされ、60名が聴講に訪れました。

講義資料には、津市内の街並みが映った貴重な写真などが使用されており、聴講者の注目を集めていました。学生達からは「津市をどんな街にしたいの?」、「あそ

三重創生ファンタジスタの養成は

下記の事業協働機関とともに行っています

【高等教育機関】四日市大学、四日市看護医療大学、鈴鹿医療科学大学、鈴鹿大学、三重県立看護大学、皇學館大学、ユマニテク短期大学、鈴鹿大学短期大学部、高田短期大学、三重短期大学、鈴鹿工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、近畿大学工業高等専門学校

【自治体】三重県

【企業（50音順）】(株)アーリーバード、ICDAホールディングス(株)、(株)医用工学研究所、(有)オズ海鳥遊民くらぶ、(株)サン浦島、(有)深緑茶房、(株)ZTV、大王運輸(株)、中外医薬生産(株)、辻製油(株)、(株)ドリームエージェント、(株)中村製作所、日本土建(株)、(有)野瀬商店、橋本電子工業(株)、(株)ハツメック、速水林業、万協製菓(株)、(株)光機械製作所、(株)百五銀行、(株)百五総合研究所、(株)ヒラマツ、扶桑工機(株)、(株)前田テクニカ、(株)マサグループ本社、三重県商工会議所連合会、三重県商工会連合会、三重県中小企業家同友会、三重県農業協同組合中央会、(株)三重ティーエルオー、三重テレビ放送(株)、(株)メディアサポジャパン、(一社)わくわくスイッチ

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

地域イノベーションを推進する三重創生ファンタジスタの養成
国立大学法人三重大学 地域人材教育開発機構

<http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/>